SHIMANE AKAHIGE BANK

島根の地域医療

2011／7／11　第３７号

発行者
島根県健康福祉部
医療政策課医師確保対策室

今回の紙面

◆地域医療最前線 NO.42《大谷順 院長》　◆看護師さんのページ NO.22《村上マサ子さん》
◆赤ひげ先生《宮本雄一 先生》　◆島根大学医学部「地域医療支援学講座」NO.5
◆しまね地域医療の会

地域医療最前線 NO.42

雲南市立病院
病院長　大谷　順

当院は、本年４月から雲南市立病院として新しい門出を迎えました。新病院への移行にあたり、院長を拝命いたしましたので、ご挨拶を申し上げます。

当院は、雲南地域の人々が地域の幸せは良い病院づくりからという切なる思いのもと、「共存」を合言葉に、昭和23年、半ば住民の手作りで「雲南共存病院」の名称で誕生しました。以来幾多の困難を克服しながら雲南二次医療圏の中核病院として地域医療を支えております。このたび新病院のグランドデザインとして、地域密着型病院への進化を掲げ、それを実現すべく以下の５つの基本戦略を掲げました。

①５事業（救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療）の強化、継続
②医師会との連携強化
③医学生・若手医師の教育
④女性医師招聘への環境整備
⑤市民への情報公開

①総務省の定める５事業については、政策医療の担い手としての自覚も新たに鋭意取り組みます。とくに救急医療については、昨今の医療環境の変化により地域住民、医師会、ならびに隣接する医療圏にある高次医療機関の皆様には多大なご迷惑をお掛けしております。今後は、救急医療の大部分を占める、いわゆるプライマリ・ケアを中心に、病院の身の丈に合った救急医療を提供できるよう、集約化、機能分担も見据えながら、地域の中核病院として認めて頂ける救急医療体制を構築します。

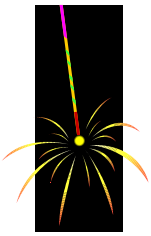
②長い年月をかけ、地元医師会の先生方との信頼関係を構築してきましたが、環境変化や医師会再編等でその関係は薄弱化しているのが現状です。ここは黎明期の初心に戻り、「共存共栄」の精神のもと、新たな信頼関係を構築すべく努力致します。昨年度より医師会事務局を当院に移転していただいたほか、本年度より開放病床を稼動させ、医療の一貫性、継続性、患者家族の利便性向上を図るとともに、医師会との連携強化に努めます。

③平成19年開設の地域医療人育成センター事業により、既に多くの医学生、研修医の皆さんに地域医療実習の場を提供してきました。４月からは後期研修医２名が就職するという嬉しい結果にも繋がり、本事業の有効性を実感しています。「医療の本質は地域医療にある」「地域に必要な医療人は地域で生み・育てる」という理念のもと、今後も当院の基幹事業として力を注ぎます。

④近年女性医師の進出は目覚しいものがあり、女性医師にとって働きやすい環境を、ハード・ソフトの両面から整備します。すでに女性医師専用当直室も整備し、勤務体制も柔軟性のあるものを用意しています。最近、女性医師については、皮膚科、内科に常勤医として各１名、また院内保育を利用する研修医ならびに非常勤医師が各１名勤務するようになりました。今後は他職種も含めて、より一層女性の働き

やすい病院づくりを目指します。⑤地域の医療圏が抱える問題は、病院と行政だけでなく、医療サービスを受ける市民の側も当事者意識をもって課題解決にあたるべきと考えます。すでに地域住民による支援団体などとの連携を図ってきましたが、今後はこれまで以上に対話の機会を設け、院内のみならず院外にも積極的に情報公開の場を設けます。9月には病院祭を企画し、地域との相互理解の発展に努めます。

めまぐるしく変わる社会保障制度に翻弄されることなく、また量的にも質的にも多様化する地域のニーズには可能な限り応え、地域住民が安心して生活できる暮らしの底支えができる病院となることを目標に、基本戦略を着実に実行しながら、地元出身者としての熱い想いを胸に、努力邁進して参ります。



看護師さんのページ

NO.22

隠岐広域連合立隠岐病院
看護部長　村上マサ子

隠岐広域連合立隠岐病院は、病床数１３４床（一般病棟１０４床、精神病棟28床、感染症２床）、診療科14科で、隠岐二次医療圏における中核病院です。建物の老朽化や狭隘化が進み、また離島医療を担う中核病院としての役割が果たせるよう病院整備基本計画が策定され、平成24年春の開院を目途に新病院建設が始まっています。病床数は１１５床（一般病棟91床、精神病棟22床、感染症２床）と減少しますが、救急医療・急性期医療に対応できるよう医療機器を整備するとともに、病院機能が充分に発揮できる体制作りに取り組んでいます。

当院は、離島という環境の中で、多職種と協働しながらチーム医療を充実させ、限られた医療資源をできるだけ有効に活用して効率的な医療・看護を実践していく必要があります。当院における透析医療は、泌尿器科常勤医師が不在となりましたが、ベテラン医師３名を中心にチームで透析を継続し、医療の質の向上を図っています。また外科手術等に関しては、診療所医師の応援も得ながら、手術前カンファレンスを実施し職種間で情報共有を図り、より安全な手術を行なっています。

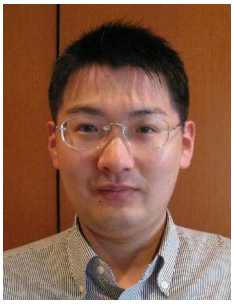
平成19年４月から院内助産科「あかり」がスタートし、山陰では初の院内助産システムとして話題になりました。この４年間で１５４件ほどのお産があり、産婦やそのご家族とともに喜びを分かち合いました。今年度からは、産婦人科医師２名体制が実現し、再び初産分娩や帝王切開等も可能となり、一人でも多くの妊婦さんが安心してお産ができるようスタッフ一丸となって頑張っています。

在宅医療・訪問看護の充実が求められるなか、特に医療ニーズの高い患者さんの支援については、さまざまな課題を抱えています。地域連携室や院内の多職種で構成される地域連携推進委員会を中心に、医療・保健・福祉の各関係機関と連携を図り、円滑な退院調整の推進に取り組んでいます。

病院の基本理念である「この島に住む、安心の医療」を柱に、看護部では、「やさしさと思いやりのこころ」を大切にしながら、患者様一人一人に安心し満足していただける看護の提供に努めています。看護のやりがいや自己成長が実感でき、専門職業人としてキャリアアップができるよう教育体制の充実を図り、新人教育においては、年間スケジュールに基づいた臨床実践指導を個別に応じながら行っています。隠岐の美しい海と緑、自然に恵まれた環境で新人看護師が「看護を続けたい」と思える職場づくりを目指しています。

赤ひげ先生

浜田市国民健康保険
あさひ診療所
所長　宮本 雄一



はじめまして、今年４月から赴任しました宮本雄一と申します。私の経歴と抱負をお伝

えしたいと思います。

出身は広島県北広島町（旧芸北町）細見で、自治医科大学の卒業です。平成12年から9年間は広島県内で、内科医又は外科医として、外来・入院・手術・往診に従事しました。その後、診療所で働くために自分自身が納得できる臨床レベルを身につける目的で、今年3月までの2年間、岐阜県恵那市にある市立恵那病院に勤務し、指導医のもとで整形外科の外来・入院・手術に、後半の1年間は整形外科をしながら、小児外来にも従事しました。そこでの2年間で週1回半日ですが、市内の国保診療所も担当しておりました。

もともと私自身、実家に近いところで診療所勤務をしたいという希望がありました。その際には、①独りよがりの診療になる危険を避けること、②研修する時間を確保し臨床知識のアップデートができること、③地域医療をシステムで考える時にソロではなく後継者となる医師への引き継ぎが行いやすいこと、④急な休みの時でも医師同士でカバーしあえる、長期の研修・休暇が取りやすいこと、などを考え情報を収集しました。診療所ですでに働いていた先輩たちに進路・就職相談を行い、広島や島根、北海道などの自治体のドクターバンクに登録しました。そこで出会ったのが浜田市国民健康保険診療所連合体でした。

次に抱負ですが、この連合体の魅力は、浜田市中山間部にある、あさひ診療所・波佐診療所・弥栄診療所・大麻診療所の4ヶ所の診療所を、5名の医師でお互いに助け合いながら、医師会の方々と一緒にシステムとして地域医療を支えるという姿であり、チームのメンバーが地域医療に対して同じ方向性を持っているということです。

私の目指す医療である、「その地域に住んでいる人々の専門医になりたい」「長く地域に携わり、患者さんの生活を十分理解した上で患者さんの人生にとって最もよいと思われる医学的な助言ができる立場でありたい」ということを当地で担えればうれしいです。

そのためには私自身が診療所から地域へ出て、まずはその地域の住民として認めてもらい、地域の一住民として生活しながら、地域の皆さんと一緒に健康問題を考えることができる、よろず医療相談の役割を担いたいと思います。そして、病院の専門医の先生方にとっても患者さんを託せるように臨床レベルを常に向上させていく努力を、これからも継続していこうと思っております。このような私ですが、今後ともよろしくお願いします。

島根大学医学部「地域医療支援学講座」【NO.5】

島根県の総合医・家庭医育成ネットワーク始動

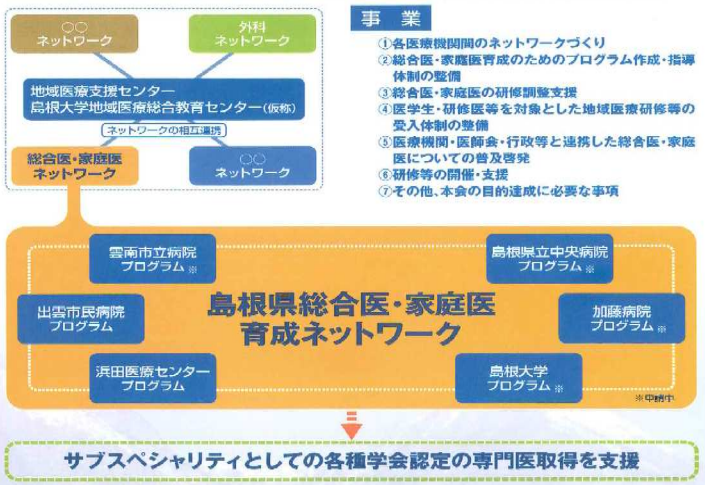
教授　谷口　栄作

6月26日(日)、出雲市内において、第1回島根県総合医・家庭医育成ネットワーク会議を開催しました。

このネットワークの目的は、大学、大規模病院、地域の中小規模病院、診療所、医師会、行政等が協力し、地域に根ざした総合医・家庭医育成の取組みを進めることであり、日本プライマリ・ケア連合学会の家庭医療専門医、日本内科学会の総合内科専門医等の取得など、キャリア形成の支援を行なうものです（下図参照）。当日は26病院、11診療所からご参加いただき、貴重なご意見をいただきました。

会議の中では、県内の家庭医療後期研修プログラムとして、雲南市立病院、出雲市民病院、加藤病院、浜田医療センター、県立中央病院、島根大学の6つのプログラムについて、その特徴や開発に至った経緯などを紹介していただきました。このネットワークの目的はオール島根で総合医・家庭医を育成することですが、また臓器別専門医を目指す先生方に対しても総合医・家庭医的視点を身についていただくために、プログラムの一部を活用していただければいいと考えております。

私は、常日頃、学生と接することが多いのですが、総合医・家庭医を目指



ネットワーク会議の様子

しても、これまでは、県内での育成体制が不十分なために、県外に出ていかざる得ない学生がいることを非常に残念に感じておりました。今回このネットワークができたことで、育成体制の充実に向けた第一歩が踏み出せたと考えています。今後、関係者の皆様の御協力をいただきながら、育成体制をさらに充実させていきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

また、総合医・家庭医を目指す学生・若手医師のみなさん、総合医・家庭医としての技術習得とともに、島根で新たな仕組みづくりにともに取り組んでみたい人は是非ご連絡ください。

☎連絡先
島根大学医学部地域医療支援学講座
0853-20-2558

しまね地域医療の会

しまね地域医療の会は、県内の地域医療の向上や発展のため、医師同士が情報交換や提案をする場で、年に2回開催しています。平成23年6月18日（土）、今年度第1回目の会を、出雲医師会館にて隠岐病院とテレビ会議でつなぎ開催しました。

会員は、今春県外から赴任いただいた先生の加入もあり、83名となり、今回の参加者は、出雲会場42名、隠岐会場5名の計47名でした。

まず、規約改正及び役員改選があり、会長には、中川島根県病院事業管理者が選任されました。中川会長からは、全国自治体病院協議会における副会長として、また、全国病院事業管理者等協議会の幹事として、それぞれの立場を活用して、情報発信や意見交換、国への提言等を行いたいとのあいさつをいただきました。

しまね地域医療の会の様子

続いて、医療政策課からは、地域医療再生計画の拡充分の概要及び本年8月に設置する「地域医療支援センター」の説明、島根大学地域医療支援学講座谷口教授からは、地域医療実習やセミナー、交流サロンの活用などを通じて、学生が地域医療を意識し、モチベーションを維持させる取組みが報告されました。

各地区等の主な活動報告としては、

・島前ブロック＝県立中央病院とのビデオ会議システム
・隠岐ブロック＝医師やその他の医療プロバイダーに対する周産期医療研修会の取組
・飯南ブロック＝今秋からの電子カルテ化の始動
・邑智ブロック＝内科医増による診療負担の軽減状況
・浜田ブロック＝診療所連合体の医師増による体制強化

その他、隠岐病院の加藤一朗先生から東日本大震災への支援活動報告をいただき、その後、救急患者の搬送の受け入れ態勢についての情報交換や、県西部の周産期医療体制について活発な意見交換が行われました。

この会の後には、来賓としてお招きした、自治医科大学と公益社団法人地域医療振興協会の4名の皆様も一緒に懇親会を行い、より一層の情報交換の場となりました。【医療政策課　横地】

島根県で勤務していただける方を紹介してください

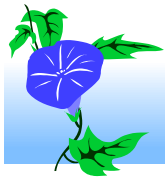
友人・知人等に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた医師へは、医療機関の情報等を提供し、県内での勤務を支援します。

医師募集・地域医療ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。 また、地域医療の視察ツアーを実施しています。旅費は県が負担します。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501　松江市殿町１番地　島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室
TEL 0852-22-6683　FAX 0852-22-6040
E-Mail iryou@pref.shimane.lg.jp
ホームページ：島根の医師確保対策　検索